

<フェアトレード事業> 「パヤタスのお母さんたちと出会って変わったフェアトレードへの想い」



ICAN 日本事務局
宮澤 卓海

私は、インターンとしてアイキャンに携わり、実際にアイキャンのフェアトレードの事業地であるフィリピンのパヤタスゴミ処理場を訪れるまで、「フェアトレード」に関して専門的な知識はほとんどなく、「ただ何となく知っている。」という程度のものでした。私が初めてパヤタスを訪れるきっかけになったスタディーツアーでも、参加した一番の目的はアイキャンが保護活動を行っている、路上で生活をしている子どもたちとの交流であり、フェアトレードに対して特別強い関心があったわけではありませんでした。

パヤタスでは、フェアトレード商品の生産者であるお母さんたちのお話を聞く機会がありました。彼女たちは、「昔は、毎日大量のゴミが集まるゴミ山へ登り、お金を換えることができそうな物を集めては売って、毎日危険な生活を送っていました。それから、より安全な方法で収入を得るためにアイキャンの職業訓練を経て、今では自分たちの作った商品の売り上げだけで生活ができるようになりました」と誇らしげに語っていました。自分が作った商品が売れたときに飛び切りの笑顔で喜び、飛び跳ねる生産者の光景を目の当たりにしたことで、フェアトレードに対しての気持ちや想いが変わり、多くの人にフェアトレードを伝えたいと思うようになりました。

5月12日に名古屋市で行われた「フェアトレード・デーなごや2018」にアイキャンは出展し、パヤタスのお母さんたちが作ったフェアトレード商品の販売を行いました。私はこのイベントは、生産者の方々の想いや、この商品たちができるまでのストーリーを伝える



絶好の機会だと思いました。そして、ただ商品を販売するだけではなく、自ら来場者の方に積極的に声をかけることを心掛けました。もちろんそんな自分の声をすべての人の耳や心に届けるというのはとても難しいことだと思います。ですがその中でも、この商品がどのように作られたのかを伝える私の話真剣に耳を傾けて下さる方々や、「商品づくりの技術や知識が無かった方々が、今ではこんなにかわいくてしっかりとした商品を作っているのは凄い！」と驚かされている来場者の方もいらっしゃいました。

私は実際に現地で生産者の方々と活動をしているわけではありません。直接的に何かをすることはできないかもしれませんが、ですが、生産者のお母さんたちが作ったフェアトレード商品が少しでも多くの人の手に渡り、現地の状況をより多くの方に知ってもらって、彼女たちが見せてくれた飛び切りの笑顔と笑い声をもっともっと広がるように活動をしていきます。

路上の子どもたち

5月11日/ケソン(フィリピン)

元路上の若者の接客・商品開発能力の向上



カリエカフェのメンバーが、新商品開発や接客スキル向上を目的とした研修の一環としてスターバックスコーヒーを訪問しました。接客や商品内容、陳列方法等を観察し、その学びを基に、ドリンクやドーナツの試作品を

作りしました。メンバーは「店員はとてもプロフェッショナルで、私たちの目を見て笑顔で対応してくれました。」と語り、この経験をカリエカフェに反映させようとしています。

MY アイキャン事業

5月26日/愛知

紛争地イエメンの子どもたちを応援する街頭募金



紛争地イエメンの子どもたちの為の街頭募金活動に、18名のボランティアの方々が参加し、79名の方々から募金を頂きました。参加者からは、「今後ますます暑くなっていく中で、こういった点に心がけていく必要がある

か」、「通行人の方が目の前を通る短時間の間に、どれだけ強い、心に響く、心に残る言葉を訴えかけることができるかが重要なのではないか。」といった感想がありました。

紛争の影響を受けた子どもたち

5月2日/ジブチ市(ジブチ)

子どもの保護事業に関するパートナーシップ契約を締結



アイキャンはUNHCRと、ソマリアやエチオピア難民の子どもたちの保護事業に関するパートナーシップ契約を締結しました。UNHCRジブチ代表から、「アイキャンとパートナー契約が結ばれたことを嬉しく思う。プロジェクトを通して、子どもの保護活動が推進され、彼らを取りまく環境が改善されることに期待している。」とのコメントをいただきました。今後、ジブチにおけるアイキャンの活動を一層強化していきます。

（この部分は上記の文脈から補完された内容です）

国際理解教育事業

5月20日/岐阜

ガールスカウト岐阜県連盟総会での講演



「ガールスカウト岐阜県連盟総会」において約50名を対象に、フィリピンの路上や紛争地に暮らす子どもたちの現状とアイキャンに活動について講演を行いました。参加者からは、「フィリピンの路上の子どもたちが助け合いながら学んでいく姿に感動しました。」

「私たちが人に役立つ少女・女性になれるよう、できる所から活動していきたいと思っています。」などの感想がありました。